



「インディ・ジョーンズ クリスタル・スカルの王国」のジャパンプレミアで来日したハリソン・フォード＝インディ・ジョーンズ。「タイムズ」が挙げるジェントルマンの要件を彼なら満たせる？
Photo:Takashi Watanabe/AFLO

その着こなしに理由アリ

エレガンスの社会学

文 中野香織

第17回

「インディ・ジョーンズ クリスタル・スカルの王国」が63カ国で初登場第一位の快挙をなすとげ、興行収入においても歴代の記録を塗り替える勢い。19年ぶりのインディ「復活」に、各メディアもお祭りさながらに沸き、それはおおいに楽しいことだと思っ。

が、ちょっとこれは破格ではと戸惑うのが、インディ・ジョーンズ＝ハリソン・フォードの持ちあげ方である。映画の枠を超えて、「こういう男の復活を待っていた！」とばかり、「今、求められる理想の男性像」として引き合いに出されている。女性が渴望していた「本物の男」。それが、狙った獲物をどこまでも追って必ず獲得する、タフで賢いインディ＝ハリソンのようなマッチョな男である、と。

たとえば、英「デイリーメール」紙は、「リアルマンの復活／女たちよ、ミスター・レトロセクシユアルに備えよ」と特集を組み、インディ＝ハリソンをモデルとして称える。男性ホルモンに由来する男の資質を今こそ誇り高く取り戻せ、とばかり褒め称えられる「リアルマン」は、漫画的なまでにマッチョ。「占星術や風水に頼ることなく、自分の頭で決定を下す」「浴室に美容製品をこたごた持ちこまない。シャワーを浴びて、ひげをそり、出る！」迷っても方角を人に聞かない。少し到着が遅れるだけ「本物の男にふさわしい速度は常に法定速度より5%上」

「映画版『セックス・アンド・ザ・シティ』と一緒に見にくい女などこの世に存在しない」など、もう、笑える笑える。

60年代までは、こんな男がふつうにいた。70年代、女たちは

女の世界に関心をもちたい男をバッシングし、その結果、80年代には女性のベースで人生の価値を共有しようとする「ニューマン(新しい男)」が生まれた。男の、女側への歩み寄りにはさらに進み、90年代には繊細でモイスタライザーが欠かせない「メトロセクシユアル」が誕生した。それで最終的に女が納得したかというところではなく、しばらくして不満が噴出することになったのである。男を男たらしめていた男性ホルモンの香りよ、もう一度。21世紀の今、再び熱い視線を浴びるレトロセクシユアル像は、そんな流れの中に位置づけられる。

女って、勝手やなあ。今さらマッチョがいいと言われても。もうモイスタライザーは手放せないカラダだし。という男の不満が聞こえてくる気がする。実は、そんないまだじきの男の側から見た理想像かとも思うのだが、マッチョに走らない、もうひとつの男性像にもスポットライトが当たっている。これもまた、絶滅寸前種であったのだが、確たる価値がわからなくなっている現代に、再び表舞台に引っ張りあげられることとなった。

ブリティッシュ・ジェントルマンである。英「タイムズ」紙が報じるところによると、ダンヒルが「ニュー・ブリティッシュ・ジェントルマン(New British Gentlem [n])」。頭文字をとって「NBG」を定義するレポート作成に関わっているようだ。NBGの行動や服装の規範を定めるとして集められたのは、モダンプリテンを象徴する華やかな男ばかりである。レストラン「セント・ジョン」の

ニュー・ブリティッシュ・ジェントルマン

スターシェフ、ファーガス・ヘンダソン。「ヴォーグ」「グラマー」「GQ」誌などを出版する英コンテナスト社のディレクター、ニコラス・コルリッジ。英文学史に燦然と輝くサミュエル・テイラー・コールリッジの子孫にあたる。そして24時間コンシエルジェ・サービス「クインテセンシャル」の創設者のひとり、ベン・エリオット。チャールズ皇太子の二度目の妻、かのカミラ・パーカー・ボウルズは彼のおばである。

スターシェフ、雑誌編集者にして経営者、「不可能を可能にする」セレブサービスの創設者。こうした職業こそ21世紀英国を象徴するよなあと、しみじみするのだが、ダンヒルのイメージ&プレスリリース、インズダイレクター、ヤン・ドゥベル・ド・モントビイが語るNBGの資質は、肩透かしをくらうほどオールドファッションである。「女性の扱いが丁寧で、寛容でなくてはならない。優しければ志操堅固、決然としていてユーモアのセンスも備えているのが本物のジェントルマン」と。

思えば、どんなに時代が変わろうともジェントルマン像が生き続けてきたのは、可塑性があったから。時代に応じて読み替え可能な部分があったがゆえに、数百年も死に絶えることがなかったのである。いま、再び不死鳥のように蘇った21世紀型ジェントルマンは、英「タイムズ」紙のウィリアム・ドルーの総括によれば、具体的に、次のような行動をとる。変わらぬ理念もあるが、

1. 「ブリーズ」と「サンキュー」を言う。自分のことを話すよりも、相手のことを質問する。
2. 時間厳守。遅刻はあなたを重要

3. 地球のことを考える。環境に配慮せよ。
4. 人のためにドアを開け、人が入ってきたら立ちあがる。女性に対してばかりではなく、男性に対してもこれを行え。現代のジェントルマンは女性を陶器のように扱わない。
5. 謙虚である。自慢は断固として非紳士的である。
6. よき父である。子の養育を女性にのみまかせた男は魅力に欠ける。
7. 自分の出自をごまかさない。偽装は勇気なき者のすることである。
8. 軽い恋のようなふざけあい(フラット)を。誰とでも。よいフラーティングは礼儀正しさの一形式である。褒めことを惜しまず、相手を心地よくくつろがせよ。
9. たえない携帯いじりは厳禁。
10. 服装を整える。どんなスタイルを採用しよう、だらしないさやみすぼらしさとは無縁でいること。

紳士道のオリジンでもある騎士道も、高潔・勇気・寛大さなど高い理想を掲げていたが、それは現実がその反対だったから。今、声高に唱えられるNBG像に透けて見えるのも、理想とは逆の現実である。でも、いつの時代でも虚構の理想に向かって努力できるドン・キホーテ的資質？が男のチャームを磨いてくれるのである、と。

Kaori Nakano
服飾史家。4月より明治大学特任教授。ファッション文化史を講じる。UOMOが提唱するエレガンスを、毎回人物を切り口にしてわかりやすくひもときます。著書に「モードの方程式」「着るものがない！」(ともに新潮社)などがある。